



とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名

株式会社 エスマート

所在地

鳥取市湖山町北 3 丁目 303 番地

代表者

代表取締役 寺谷 淳

業種

小売業

事業概要

鳥取市に 11 店舗、倉吉市に 1 店舗、津山市に 1 店舗、本部、食品研究所（総菜工場）を擁する食品スーパーマーケット。「1 に鮮度、2 に価格」を掲げ、ロープライスで地元の新鮮な食材を提供している。

<2030 年に目指す姿>

安心安全な食品を提供する弊社は『地域の皆様の台所』として、地域社会との共存と消費者・従業員・生産者・仕入先といった弊社の重要なステークホルダーとも共存しつつ、事業が地域に与える影響に配慮し、弊社の活動を通じて地域の人々の暮らしの充実に貢献して、社会・環境とも調和しながら発展していくことを目指す。

日々忙しくされている家庭の笑顔に応援するため、店舗ごとにお客様の要望に応えられる取組を行う。併せて、弊社の取組を知っていただき、より多くの家庭の支持を得るため、広告宣伝を通じた情報公開手法の見直しを継続的に実施していく。

弊社の店舗網を通じ、地元の生産者によって生産された商品を「安心・安全」に地域の消費者様にお届けする。加えて、移動型スーパーの展開など、どこにお住まいでも弊社の商品を手にとっていただけるよう、「誰一人取り残さない」取り組みも実施していく。

従業員が働きがいを感じ、元気で明るく活躍できる企業になれるよう、健康を大事にしながら社員の能力を最大限に発揮できる職場づくりの実現を目指す。加えて従業員の家庭の笑顔も応援できるよう、DX の活用による仕事の効率化や、年間休日の増加、有給休暇が取得しやすい環境整備を行い、働きやすい職場環境づくり、制度整備を行っていく。人材育成については、職場における OJT、外部研修などの Off-JT の支援による能力開発を積極的に行う。そのうえで従業員が自身のキャリアアッププランを実現して理想とする人材となり、『地域の皆様の台所』を目指す弊社での活動を通じて地域に貢献できる人材となれるような環境を提供していく。

弊社では店舗展開により多数の設備を必要とし、また廃棄につながりかねない商品を多数取り扱う業態であるという現状認識のもと、省エネ設備の導入や、リサイクル・リユース・減量、環境配慮型商品・サービスの提供など、自社の活動に起因する CO2 の削減など、気候変動対策へも取り組む。

<目指す姿の実現に向けた重点的な取組>

社会5：多様な人材の活躍
 社会6：多様な働き方の促進
 社会8：社会配慮型商品・サービスの提供
 社会10：地域社会への貢献

経済10：人材育成・能力開発

環境3：【気候変動③】自社の事業活動が引き起こす影響

<重点的な取組推進時のインパクト（正の影響、負の影響）の分析・考察>

《 正負の影響の分析 》

取組	正の影響	負の影響
多様な人材の雇用	就労機会の増加（社会貢献）	業務効率の低下 ハード・ソフト面での対応 （高齢者、障がい者）
多様な働き方の促進	職員の家庭生活の充実 育児、教育への間接的な貢献	配置人員減による収益性の低下
社会配慮型商品・サービスの提供（移動スーパー）	居住地にとらわれず買物可能	車両使用によるCO2排出増
地域社会への貢献 （寄附付商品、地域への寄付）	地域社会への金銭面での貢献	消費者への価格転嫁の可能性 弊社収益性の低下
環境負荷リスクへの対策	脱炭素社会実現への貢献	設備投資負担 コスト増による収益性低下 新事業分野への管理労力負担増

◆多様な人材が多様な働き方ができ、活躍できる職場づくり（社会5、6、経済10）

若者が鳥取で働ける機会、高齢者が希望する場所で働ける機会の提供にも貢献できるよう取り組んでいく。その過程では経験年数の浅い若者の増加や、高齢者の体力面等によって業務効率の低下が起きる可能性があるが、能力開発計画やスキルマップを作成して多様な人材個々の役割、選択肢を用意するとともに、従業員が目指すキャリアに応じた研修や、昇格制度の整備により働きがいの向上をはかり、定着と能力開発を進めていく。また高齢者については、現在60歳としている定年を段階的に65歳、70歳にまで引き上げ、社員の教育係として若者と共に働ける職場にしたいと考えている。同様に社会3、社会4の女性、障がい者も含め、家庭や地域活動、健康との両立が可能となる環境、制度を整備し、就労を希望する方に選んでいただける会社となり、かつ各持ち場で目標を持ち、キャリアを積んでいただける会社づくりを目指していく。

◆社会配慮型商品・サービスの提供、地域社会への貢献（社会8、10）

『鳥取市民の台所』としての当社の在り方のもと、中山間地居住者などの買い物困難者への移動型スーパーをさらに展開し、どこにお住まいであっても弊社を經由して生活必需品や食料品などの地産品を手にとることができるよう取り組みを強化していく他、地域団体への寄付、寄附付商品の取扱い拡大など、資金面でも地域に貢献していく。本取り組みによって収益性は下がるため継続は容易ではないが、「1に鮮度、2に価格」の理念のもとお客様への価格転嫁を最小限とし、かつ地域貢献を恒常的なものとしつつ当社も健全な経営を持続させていくため、業務の効率化やデジタル化による生産性向上にも取り組んでいく。

◆CO2排出量削減に向けた取り組み（環境3など）

弊社が活動するうえでは、商品搬入における物流のための車両による燃料使用、店舗における照明や冷凍冷蔵庫による電気使用、商品包装紙など、CO2排出や廃棄物の発生に影響を及ぼすこととなる。劇的な改善効果を得るためには多額を投じた設備更新が必要となるため即時には困難であるが、配送ルート効率化や、販売商品のノントレイ化等、可能な限りの対策を実践しつつ、安定的な収益を元手に計画的にトップラナー設備への更新を順次進めていく。

社会(1/2) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
労働災害の防止	<p>【主な取組】 安全衛生管理活動計画書(毎年鳥取労働局提出)に基づいた活動を毎月計画的に実施し、労働災害を未然に防ぐ。</p> <p>【R元年度】2人 【R2年度】0人 【R3年11月現在】0人</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 労働災害発件数 【R4年度】0人 【R3年度】0人 【R5年度】0人</p> <p>【目標達成に向けた取組】 1.新入社員の安全教育 2.バックヤードの整理整頓 3.労災に関する危険の注意喚起 4.安全パトロール 5.4S活動 6.ストレスチェックの実施により、労働災害を防ぐ。</p>
ハラスメントの防止	<p>【主な取組】 ○ハラスメントを受けた従業員のための社内相談窓口の設置。 ○パワハラ・セクハラに係る就業規則整備し社員教育を実施。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 外部相談窓口の設置、運用開始(R4年中)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 【R4年度】社外相談窓口設置、気軽に相談できるよう、社内への啓発を実施。 【R5年度】コンプラ統括室の設置、事後の迅速かつ適切な対応ができる体制を構築する。 【R6年度】マタハラを就業規則に追加し、全社員に注意喚起をする他、最新の動静に即応した就業規則改定を行っていく。</p>
女性の活躍	<p><KPI> 全従業員に対する女性の割合 59.8%(R3年時点) 全管理職に対する女性管理職の割合 15.8%(R3時点)</p> <p>【主な取組】 ○人事考課基準、昇進昇格基準等を明確にする人事制度を検討。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 全従業員に対する女性の割合 62%(R6年時点) 全管理職に対する女性管理職の割合 31%(R6時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○新人事制度策定の中に人事考課基準、昇進昇格基準等を明確化する。 ○管理職候補者を選定し、個別の育成計画を立てる。 ○定期研修や社外研修など各種研修会や教育機会へ女性の参加を奨励する。</p>
障がい者が働きやすい職場づくり	<p><KPI> 障がい者雇用者数 10人(R3/11月時点) (※雇用率 2.37% R3年11月時点)</p> <p>【主な取組】 ○養護学校等の職場体験、試用雇用の受入 ○「企業内支援者」を置き、外部支援団体と連携し就労支援を行っている。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 雇用率は、障がいの程度や労働者数で算出されるため、雇用率のアップにより障がい者雇用を増加させていくため、雇用率での目標とする。 ※雇用率 2.55%(R6年時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○障がい者雇用については、「企業内支援者」が社員教育を行う・・・高齢者などベテランによるサポートを行っていく ○障がい者が働きやすい施設・設備の整備を行う</p>
多様な人材の活躍	<p>【主な取組】 ○若者・高齢者が働きやすい職場作り (R3年時点)総社員数 517名 うち ~30代 168名(32.4%) 60代~ 174名(33.7%) ○非正規社員の社員登用 H30年度/6名 R1年度/2名 R2年度/1名 R3年度/4名</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 ○若者・高齢者の増加 【R6年度】~30代(35%) 60代~(35%) ○非正規社員の社員登用の推進 【R4年度】3名 【R5年度】4名 【R6年度】5名</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ・定年延長(現在60歳→70歳)の段階実施 ・新人事制度策定による、魅力ある、わかりやすい制度へ</p>

社会(2/2) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
多様な働き方の促進	【主な取組】 ○リモート勤務の実施 ○最低 年/5 日の有給休暇取得 (令和3年度) 1人当たり取得日数 年/8.2日	【今後の目標・達成時期】 1人当たり取得日数 【R4年度】年/8.7日 【R5年度】年/9.4日 【R6年度】年/10日 【目標達成に向けた取組】 【R4年度】 有給休暇取得促進の為、アニバーサリー休暇・リフレッシュ休暇の導入 【R5年度】 までに 完全週休2日制の導入 【R6年度】 フレックスタイム制度の導入
労働者への人権配慮	【主な取組】 ○年1回以上鳥取市主催の人権問題講習会参加 ○毎月店長・本部役職員が集まる営業会議で年1回以上人権学習実施	【今後の目標・達成時期】 全従業員への意識啓発と浸透 【目標達成に向けた取組】 【毎年度】 鳥取市主催の人権学習の内容や営業会議での勉強会の内容をまとめ、全店の社員に文書で周知する人権学習の継続実施
社会配慮型商品・サービスの提供	【主な取組】 ○中山間地の買い物困窮者に対する支援 とくし丸(移動スーパー/軽トラに商品を積み中山間地の家の玄関先に配達) 令和4年2月末現在顧客数 月/延べ6,000先	【今後の目標・達成時期】 【R4年度】顧客数 月/延べ7,000先 【R5年度】顧客数 月/延べ8,000先 【R6年度】顧客数 月/延べ9,000先 【目標達成に向けた取組】 業務の効率化、新規採用などによりスタッフを増員し運行ルートを増加させる
地産地消	【主な取組】 ○鳥取の野菜・米・梨農家が栽培した農産物を販売 ○鳥取で水揚げされた水産物を販売 ○鳥取で飼育した肉の販売 ○鳥取で製造された食品の販売 ○鳥取で製造した雑貨の販売 ○鳥取で醸造した酒の販売 上記の地元商品を優先している	【今後の目標・達成時期】 ○地産地消の販売コーナーの展開 【R4年度】農産物、食品 【R5年度】水産物、畜産物 【R6年度】雑貨、酒 【目標達成に向けた取組】 ・地元産であることのPOPを強化し 県内12か店で取り扱い開始 実現に向けて生産者、仲卸業者と連携を密にしていく
地域社会への貢献	【主な取組】 ○あいサポート ○災害時生活関連物資供給 ○中山間集落見守り活動(とくし丸) ○クールシェア・スポット ○鳥取県陸上競技協会主催競技への寄付 ○寄附付商品を扱い、小学校に活動支援として寄付	【今後の目標・達成時期】 ○寄附付商品による寄付の目標 【R4年度】対前年比102% 【R5年度】対前年比106% 【R6年度】対前年比105% 【目標達成に向けた取組】 寄附対象の取組の見える化を行い、本取り組みの紹介を積極的に行うことで、取り組みに共感し、支援してくださるお客様を地道に増やし、大きな取り組みへと育てていく

経済(1/2) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
事業継続計画(BCP)の策定	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害時対応マニュアルを作成し災害時に活用 ○新型コロナ感染対策マニュアルを作成し、社内で感染者が発生しないよう周知 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マニュアルの理解と、実効性の確保 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>【毎年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○BCPに沿った訓練を全店(本部・食品研究所含む)で年1回実施 ○毎日営業に向け、新型コロナウイルス感染者を社内から出さないような感染予防対策を実施 ○災害発生時にはグループ会社マルイと連携し商品の確保を行う
セキュリティ対策	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期的なアップデートの実施 ○統合脅威管理システムを導入 ○ウイルス対策ソフト及びPC挙動監視システムを導入 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最新のセキュリティの維持 ○人的リスク排除のための訓練の継続実施 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>【R4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員向けセキュリティ勉強会実施 <p>【R5年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> セキュリティメール訓練を実施 <p>【R6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> セキュリティ管理システム見直し
法令順守の取組の徹底	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスの状況を把握し、コンプライアンス違反を未然に防止する。 ○コンプライアンス規定を作成。 ○チラシを作成し、規定のポイントと社内相談窓口を周知 ○監査室を設置し、専担者が店舗を回りコンプライアンスチェック実施、併せて現場でコンプライアンス指導を実施 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時勢に即応したコンプライアンス体制の構築 未然防止の取り組みを前提とし、常に最新の動向に対応できる体制を整える <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>【R4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの状況把握(監査室による事後チェック)の仕組みを新設 <p>【R6年度】「監査室」を「コンプライアンス統括室」に発展的に改変</p> <p>【継続的に実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス違反を未然に防止する体制の構築(規定周知、委員会・監査室の活用、相談窓口の活用)
情報公開	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやSNSや店頭等でとくし丸や寄附付き商品の情報公開実施。 ○就職活動に必要な給与・労働条件・労働環境の公開。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsへの取組の公表(本件認証取得内容など)による、地域のSDGs取組に向けた啓発 取組の見える化のさらなる推進 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>【R4年度～R6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エンカル消費、地産地消、とくし丸、寄附付き商品の活用状況など弊社の取組をホームページやSNSや店頭で情報公開。取組の見える化を進めるとともに、地域へのSDGsの浸透の一助とする。
後継者の確保	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一部の経営者に頼らない経営の仕組み権限移譲、分散などを行う。 ○マムハートホールディングス内で人事交流や人材育成を行い、経営体制を盤石で強固なものとするなど、何かあっても持続可能な体制を構築 (マムハートホールディングスは、持株会社で2018年3月にマルイグループ企業の効率化・サービス向上を目指し設立されました。傘下には、エスマート・マルイ等の主企業があります) 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人的な経営基盤の安定化(組織強化) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業会議による経営方針の管理職への共有と、管理職を経由した社員への浸透 ・権限の移譲、分散を順次進め、特定の経営者に頼らない経営体制を構築

経済(2/2) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組								
コロナなどの市場変化を見据えた対応	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期的なマーケット調査や、顧客意見を取り入れたサービス提供を行っている ○非接触型決済の導入 ・フルセルフレジ順次導入【R3年11月現在】2台 ・クレジット、チャージ・ペイペイ使用率アップ 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>クレジット、チャージ・ペイペイ使用率の引上げ</p> <p>【R4年度】R3年比 101.67%</p> <p>【R5年度】R3年比 103.33%</p> <p>【R6年度】R3年比 105.0%</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>フルセルフレジの設置台数の拡大 (対象店舗数/3店舗) (台数/12台)</p>								
自社以外の経営資源活用	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マムハートホールディングス内の企業間でシステム・人事・市場動向・その他各種情報を共有し経営に活用 ○大学の専門性活用 ○副業・兼業人材等の外部専門家の活用 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>【R4年度】グループ企業で人事システム、営業管理システムをスタートさせる</p> <p>【R5年度】鳥取環境大学と連携し消費者動向の調査実施</p> <p>【R6年度】SNSでの販売促進に関し副業・兼業人材の専門家を活用</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>○目標達成に向けそれぞれプロジェクトチームを立ち上げ、責任と計画性を持って取組む</p>								
デジタル化による生産性向上	<p>【主な取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャッシュレス決済の推進によるレジの効率化を行う。 ○ストアコンピューターシステムのバージョンアップによりフルセルフレジやコード決済、ランクポイント制度改修等、将来構想に対応できる新システムへの対応を実施。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>【労働生産性】</p> <p>【R4年度】R3年比 100.24%</p> <p>【R5年度】R3年比 101.14%</p> <p>【R6年度】R3年比 102.02%</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>○購買動向分析により、顧客ニーズに応じた商品展開、仕入れすぎの防止に活用</p>								
雇用の維持・拡大	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップ実施 ○応募前職場見学・会社説明会の実施 ○新店開店(田園町店・鳥取南IC店)による雇用増加 ○採用チャンネル(ハローワーク、県立ハローワーク、鳥取県ふるさと定住機構、民間リクルート業者、ホームページ) <p>【令和3年度】</p> <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">採用実績、退職者数</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">社員</td> <td>8人 2人</td> </tr> <tr> <td>嘱託</td> <td>6人 4人</td> </tr> <tr> <td>パート</td> <td>40人 29人</td> </tr> </table>	採用実績、退職者数		社員	8人 2人	嘱託	6人 4人	パート	40人 29人	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>○採用</p> <p>【R4年度】</p> <p>新卒8名 中途(社員)5名</p> <p>【R5年度】</p> <p>新卒8名 中途(社員)5名</p> <p>【R6年度】</p> <p>新卒9名 中途(社員)5名</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>下記、「経済10」同様</p>
採用実績、退職者数										
社員	8人 2人									
嘱託	6人 4人									
パート	40人 29人									
人材育成・能力開発	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修・セミナーの開催増加 ○ジョブローテーションの実施 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>【R4年度】</p> <p>新人事制度策定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.能力開発計画を策定 2.スキルマップの策定 <p>【R5年度】</p> <p>試験資格取得による昇級制度導入</p> <p>【R6年度】</p> <p>研修制度の確立(OJT・Off JT)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>ベテラン、高齢者の活躍の場としてOJTの教育側に配置。 マルイにあるマルイアカデミー(教育訓練部門)、CGCの主催する研修(Off JT)に参加。</p>								

環境(1/3) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
気候変動リスク／環境負荷リスク・機会の分析・対策		
自然環境の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>○天候不順によっては、米・野菜・魚・肉の生産量、価格が変動するなどの影響を受ける業種</p> <p>○万一の災害発生等によっては、物流のストップなど一部商品供給が止まる可能性もある</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>人口当たりでは相対的に多い店舗を有しており、店舗間での商品融通を想定。 地元産品を中心に取り扱いしており、物流リスクが相対的に高い長距離配送の商品は限定的とし、複数の物流ルートを確認</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>【R4年度～R5年度】</p> <p>マムハートホールディングス内で連携し商品を安定確保する体制構築</p> <p>【R6年度】</p> <p>地元産品を優先するが、全国各地に生鮮食品の仕入れ先を持ち、気候変動によるリスクを最小限にする</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>他社(CGC)とも連携して地域を面で守る仕組みを構築する。</p>
社会・制度の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>当社の業態としては、廃棄物、プラスチックごみへの対応が必要となると認識。包装容器の使用量を管理する仕組みは整えている</p> <p>【プラスチック製包装容器使用量】</p> <p>年/115.8トン(R3年度時点)</p> <p>○「とっとりプラごみゼロ」運動に参加</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>プラスチック容器から紙容器へ移行</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>【プラスチック製包装容器使用量】</p> <p>【R4年度】</p> <p>年/110トン R3年比 95.0%</p> <p>【R5年度】</p> <p>年/105トン R3年比 90.7%</p> <p>【R6年度】</p> <p>年/100トン R3年比 86.4%</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>○マイバック推進、レジ袋削減 ○ノントレイ・ばら売り推進、無駄なプラスチック容器削減</p>
自社の事業活動が引き起こす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>○店舗では多数の照明、冷蔵庫を要する、物流過程で大型運送車両の世話となる、商品包装紙の利用など、直接・間接的にCO2を排出し世界の平均気温上昇に影響がある</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>販売店舗におけるトレイリサイクルの推進 新店舗においては省エネ設備を導入し負荷を軽減 ノントレイ化…現在リサイクルトレイ(エコトレイ)に移行中。リサイクルトレイを使用することにより新トレイに比しCO2を30%削減できる。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>環境4,5と共通とする (直接排出、間接排出CO2の削減)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>○省エネ設備への順次更新・仕入れルートの効率化など、直接・間接排出量の削減に注力</p> <p>ノントレイ(鶏肉等をトレイからラミネート袋に入れて販売できないか検討)、リサイクル推進など、エンドユーザーを経由した環境への影響にも配慮</p>

環境(2/3) : 株式会社エスマート

	取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
カーボンニュートラル			
	<p><省エネ> 燃料消費量の削減</p>	<p><KPI> CO2 排出量 1,054t-CO2/年(令和2年度時点)</p> <p>【主な取組】 ○空調設備の新タイプへの更新 ○冷凍・冷蔵設備の新タイプへの更新</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 【R4年度】1,034 t-CO2/年 (20 t-CO2 削減) 【R5年度】954t-CO2/年 (80 t-CO2 削減) 【R6年度】914t-CO2/年 (40t-CO2 削減)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○空調設備の新タイプへの更新促進 ○冷凍・冷蔵設備の新タイプへの更新促進</p>
	<p><省エネ> 電力消費量の削減</p>	<p><KPI> 【温室効果ガスの排出量等/二酸化炭素換算】 (R2年度実績) 5,288.2t</p> <p>【主な取組】 ○トップランナー設備に更新(省エネタイプ) ○デマンド計を活用しデマンドコントロールに努める</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 毎年1%削減を目標とする 【R4年度】 5,182.9t 【R5年度】 5,131.1t 【R6年度】 5,079.8t</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○エネルギー使用量の削減目標を店別に作成、毎月の会議・役員会で削減状況を確認 ○グループ会社内に環境対策室(SDGs 推進室)を設置し専担者を常駐させ、その指導を基にエネルギー使用量の削減を図る</p>

環境(3/3) : 株式会社エスマート

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
廃棄物の削減	<p><KPI> 総廃棄物発生量 498.9t/年(R2 年度時点)</p> <p>【主な取組】 ○適量の製造・発注により食品ロスの削減 ○食品廃棄物を肥料として再生利用 ○とっとり食べきり協力店への登録</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 <KPI> 【R4 年度】496 t/年 (2.9 t 削減) 【R5 年度】493 t/年 (3.0 t 削減) 【R6 年度】490 t/年 (3.0 t 削減) 総廃棄物発生量 t/年(時点)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○適正量の製造・発注で食品ロスを削減 (具体策) (1) POS データを使用し、昨年の販売実績を確認のうえ販売数量を予測し、製造量や発注量を決定 (2) 売れ残り状況を見て、臨機応変に割引販売を行い廃棄を出さないようにする ○やむを得ない食品廃棄物は肥料としてリサイクル</p>
水資源の適正な管理	<p>【主な取組】 ○水道使用量を月毎に把握 ○定期的な保守、漏水への早期対応によりロスを未然防止 57,702 m³(R2 年度時点)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 【自社が使用する水道使用量】 【R4 年度】56,000 m³ /年 (1,702 m³削減) 【R5 年度】55,000 m³/年 (1,000 m³削減) 【R6 年度】54,000 m³/年 (1,000 m³削減)</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ○毎月、13 か店と食品研究所に使用量をフィードバックし、節水を行う。 ○毎月の会議で店長、役員へ報告し注意喚起する</p>
環境面での社会貢献	<p>【主な取組】 ○会社として春秋に砂丘一斉清掃活動実施</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 全社で以下の運動を推進 【R4 年度】 1.マイバック・マイボトル・マイカップ運動の推進 2.使用済みプラスチック製品を店頭で回収 【R5 年度】 1.固形石鹼の利用促進 2.使い捨て剃刀を使わない 【R6 年度】 1.マイ箸かマイカトラリーを持歩く</p>